

《事業活動》

■ 平成24年度 第2回非開削技術現場見学会

2月13日（水）、埼玉・群馬両県境を流れる神流川河川敷内において、老朽農業用水管路の更生工法の現場見学会を行いました。既設管路はφ600mmとφ900mm、施工延長223.9mの鉄筋コンクリート管であり、現場ではこの既設管の中にポリエチレン製の新管をハート型に畳んで挿入した後、中に水を注入してその水圧で畳んだポリエチレン管を円形に膨らませ、既設管に密着させる「さや管方式」という更生工法（サブテラシステム工法）が採用されておりました。

肉厚のポリエチレン管をハート型に折り畳んで既設管内に挿入する装置やポリエチレン管の溶融接着装置などを間近に見学することができました。

当日は群馬県らしい強い寒風が吹き荒れる天候でしたが、定員一杯の15名の参加者がありました。

■ 平成24年度 第3回非開削技術現場見学会

2月27日（水）、福島県福島市内において、東日本大震災で被災した下水道管きょを改築推進工法（回転破碎方式既設管充填式・スクリュ排土式）で復旧する工事の現場見学会を行いました。被災管路はφ900mm、施工延長88mの鉄筋コンクリート管であり、現場ではこの既設管を破碎回収しながら同径（φ900mm）の新設鉄筋コンクリート管を推進敷設する「回転破碎推進方式・スクリュ排土方式」という改築工法（アイエムリバース工法）が採用されており、発進立坑内で掘進機がまさに地山に入っていく初期推進の段階を見学することができました。この見学会ではまた、供用中の下水排水機能を仮排水設備により生かしながら施工するシステムが強調されておりました。見学会当日は晴天で、雪日の多い北国の中でも恵まれた条件での見学会となりました。参加人員は定員一杯の25名でありました。

《委員会活動》

■ 機関誌（No-Dig Today）編集委員会、 編集企画小委員会

【編集委員会】

第84回編集委員会を1月16日（水）に開催しました。委員会では、機関誌No-Dig Today 第82号（平成25年1月1日発行、特集：震災復旧に活躍する非開削技術）の特集記事や連載記事の内容、機関誌のバックナンバー一覧表の追加、記事のカラー化効果などについて審議しました。ここではまた、機関誌第83号（本号）の技術特集のテーマ名「ライフライン用途以外での非開削技術の活用」を承認しました。

【編集企画小委員会】

第97回、第98回の編集企画小委員会をそれぞれ1月16日（水）、3月6日（水）に開催しました。これらの委員会では、編集委員会に提案する機関誌第83号（本号）の技術特集を「ライフライン用途以外で活躍する非開削技術」とすること、特集記事の執筆依頼先、連載記事の対象テーマ、技術記事のカラー化効果などを審議しました。また、機関誌第84号（2013年7月1日発行予定）からは、技術特集は既定の8テーマに戻ることとしました。今後の各号の技術特集テーマ（8テーマ）は下記の通りとなります。

第84号（2013年7月1日発行予定）

「極小口径管路の非開削建設技術」

第85号（2013年10月1日発行予定）

「小口径管路の非開削建設技術」

第86号（2014年 1月1日発行予定）

「大中口径管路の非開削建設技術」

第87号（2014年 4月1日発行予定）

「地下管路内からの検査・診断技術」

第88号（2014年 7月1日発行予定）

「路上からの調査・探査技術」

第89号（2014年10月1日発行予定）

「大中口径管路の非開削更生技術」

第90号（2015年 1月1日発行予定）

「小口径管路の非開削更生技術」

第91号（2015年 4月1日発行予定）

「既設管路の非開削改築技術」

なお、機関誌第51号（平成17年4月1日発行）以降は全記事、JSTT ホームページから閲覧、ダウンロードできます

UP DATE

■ 工法ナビゲーションシステム運営委員会

第43回委員会を1月30日(水)に開催しました。委員会では、適用領域・適用条件が未整理であること等から工法「検索」の対象とは成り難いものの、非開削技術として今後の採用拡大が見込まれる技術や材料については、「検索」とは別の「技術情報」として整理掲載する事で、内容の充実を図る方向を確認しました。また、平成25年度のナビゲーションシステムの機能改良方針について論議しました。

■ ソーシャルコスト検討委員会

第16回委員会を1月22日(火)に開催しました。委員会では、冊子形式のたたき台段階まで進んできた「外部費用(ソーシャルコスト)検討マニュアル(案)」について、全体構成、用語・文言の適正性、参考とする外部費用計算事例内容の妥当性、その他懸案となっていた事項の審議を行いました。マニュアル(案)は平成25年度の早い時期の完成を目指すこととしました。

■ 地下探査技術委員会

第12回委員会を1月15日(火)に開催しました。委員会では、「地下探査技術マニュアル(案)」の対象を、大きく①事前調査(台帳調査・現地調査・対象確認調査)、②埋設物調査(特定埋設物調査・面的埋設物調査・特定箇所埋設物調査)、③路面下空洞調査(概略調査・詳細調査)の3調査に分類することとし、各調査について委員から提出された資料(技術内容や適用範囲、調査方法など)の審議を行いました。

■ HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会

第53回委員会をそれぞれ2月14日(木)に開催しました。委員会では、新たな発行を計画している施工事例集(平成25年度版)について審議し、事例1件につきA4判の解説1頁と施工図・施工写真等1頁の合計2頁を当てること、掲載数は20件程度としてHDD工法の特長が現れている事例を選定すること、巻頭に掲載事例が容易に理解できる一覧表を添付することなどを審議しました。

